

1 学校教育目標

- よく考えすすんで学ぶ子 ○ やさしさと思いやりのある子 ○ 明るく元気な子

2 めざす学校像、児童・生徒像、教師像

○学校像	○ 子供が学ぶ喜び、友達とかかわり合う喜びを味わえる楽しい学校 ⇒ 「子供にとって安全・安心な学校」 ○ 教職員が一体となって子供の育ちを支え、その成長を共に喜び合える学校 ⇒ 「教職員が高め合う学校」 ○ 保護者が我が子を通してよかったと実感でき、地域からも信頼される学校 ⇒ 「保護者や地域とともに子供を育む学校」
○児童・生徒像	○ 話をしっかりと聞き、主体的に学び、自分の考えや思いを表現できる児童 ○ 互いの違いやよさを認め、仲良く助け合い、協力し合って活動できる児童 ○ すすんで体を動かし、心身共に健康で自分のめあての実現を目指して努力できる児童
○教師像	○ 児童の実態を的確に把握し、個に応じた適切な指導ができる教師 ○ 児童に求めることは自ら率先垂範し、自ら学び続ける教師 ○ 学校に求められる課題を真摯に受け止め、経営参画意識をもって取り組む教師

3 学校の現状及び前年度の成果と課題

【学校の現状】

- ・感染症対策を踏まえた新しい生活様式を創造し、工夫を重ねながら教育活動を展開することで、コロナ禍においても多くの成果をあげることができた。「ウィズ・コロナ」においても「想像と創造」を重ね、学校、学年単位での共通行動を徹底しながら教育活動の充実に努めていく。
- ・明るく素直で、自分の思いをすすんで表現できる児童が多い。誰もが学び、生活しやすい環境づくりに努めてきた成果として、規範意識が全体的に向上し、自分の感情を調整できるようになった児童が多く見られる。学びに向かう力の向上が、基礎的・基本的な学習内容の定着にもつながっている。
- ・学校に求められる課題を理解して指導の工夫に努めるなど、教師一人一人の経営参画意識は高い。G I G Aスクール構想に基づくI C Tの利活用も進んでいる。子供の学びを支援する「伴走者」としての能力を身に付けられるように努めていく。
- ・保護者や地域住民が学校に対して協力的であり、毎朝の健康観察や登下校の安全管理等にも協力を得られている。感染状況に応じた授業公開を計画し、保護者・地域の信頼を維持・向上できるように努める。P T Aや開かれた学校づくり協議会の活動についても、更に前進できるようにする。

【前年度の成果と課題 ～自己評価・学校関係者評価の概要と改善方策～】

- ・文書、ホームページ、メールを併用し、丁寧かつ確実な情報提供に努めた。一人1台端末の効果的な活用等、児童の発達段階に応じたI C T機器の利活用を進めている。A Iドリル「Q u b e n a」の効果的な活用法を模索し、学習の効率化を目指していく。
- ・学校行事は子供にとっては発表の機会であり、保護者にとっては子供の成長を実感できる機会である。コロナ禍の実践をもとに、更に改善を重ねながら社会情勢に応じたよりよい実施方法の工夫を重ねていく。また、保護者・地域と連携した教育活動の推進にも努める。
- ・授業力の向上や学習規律の確立により、基礎的・基本的な内容の定着を図ることができた。「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業づくりを推進し、児童一人一人の学びに向かう力を育てることを重視しながら、その結果として基礎・基本の確かな定着と活用力の向上の実現に努めていく。
- ・児童一人一人に危険を予測し回避する能力を身に付けるようにするとともに、組織的な生活指導体制を確立し、問題の早期発見・解決に引き続き努めていく。

4 重点的な取組事項

	内 容	実施期間（年度） R:令和				
		R3	R4	R5	R6	R7
1	学力向上アクションプラン（学力向上／研究・研修）	○	○	○	○	○
2	安全・安心な学校づくりの推進（健康・安全／個別支援）	○	○	○	○	○
3	保護者や地域と共に子供を育む活動の充実（教育課程／特別活動）	○	○	○	○	○

5 令和5年度の重点目標

重点的な取組事項－1		学力向上アクションプラン							
A 今年度の成果目標		達成基準 (目標通過率)		実施結果 (通過率結果)		コメント・課題		達成度 ◎○△●	
基礎的・基本的な学習内容の確かな定着		・区調査目標通過率 85% ・到達度確認テスト 75%		・区調査目標通過率 84% ・到達度確認テスト 79%		・区調査目標通過率は1ポイントUP。特に算数は4ポイントUP。引き続き、個に応じた学力の向上・定着に努めていく。		○	
B 目標実現に向けた取組み									
新・継	アクションプラン	対象学年 実施教科	頻度・ 実施時期	具体的な取り組み内容 (誰が、何を、どのように)	達成確認 方法	達成目標 (=数値) (いつ・何を・どの程度)	実施結果	コメント・課題	達成度 ◎○△●
1 継続	【パワーアップタイム】 ○現学年の漢字・計算等の基礎的・基本的な学習内容の確実な習得	○全児童 ○国語・算数	【昼10分間】 ○月・木曜 漢字 ○火・金曜 計算	【指導】担任 【内容】区調査や単元末テストで定着率の低い漢字や計算の習熟 【教材】漢字・計算等のプリント「次へのステップ」 A Iドリル「Qubena」	○パワーアップテスト 漢字・算数 年3回実施	○国語【8・11・1月】 目標値:全国平均以上 通過率:80%以上 ○算数【9・12・2月】 目標値:全国平均以上 通過率:80%以上	○漢字PUT ①83%②79% ③85% ○算数PUT ①75%②80% ③83%	・A Iドリルと従来のドリルを併用して取り組んだ。次年度は、パワーアップテストの通過率、常時80%以上を目指す。	○
2 継続	【補習教室】 ○現学年及び前学年までの学習内容の確実な定着	○区調査目標値未達成児童 ○単元テスト正答率70%未満の児童 ○国語・算数	朝15分間 読書・補習タイム (週1回)	【指導】全教員 【内容】つまずきをさかのぼり、個別もしくは少人数で指導 【教材】区学力調査問題、漢字・計算プリントやA Iドリル、単元テスト、ベーシックドリル「次へのステップ」(1・2年)	○区調査活用 【7月】現学年 【1月】次学年	○到達度確認テスト 【2月】 2教科通過率75%以上	○到達度確認テスト通過率 2教科平均79% 国語77% 算数81%	・副担任も加わった学年体制で補習教室、サマースクールを実施することにより、基礎的・基本的な学習内容の確実な定着に努めている。	○

3 継続	【家庭学習ぐんぐん週間】 ○家庭学習習慣の定着	○全学年 ○主として 国語・算数	【4・6・9・10・11月】 各月1週間	【指導】担任・保護者 【内容】「家庭学習の手引き」により保護者との共通理解を図り、家庭学習習慣を定着	○宿題提出状況調査	【4・6・9・10・11月】 宿題提出率 90%以上	○宿題提出率 前期 85%後期 88% ○Qubena の活用	・Qubena を積極的に活用し、強化月間では月間平均 596 問取り組むことができた。	○
4 継続	【授業改善】 ○楽しく挑戦したくなる授業の創造	○全学年 ○全教科	常時	○ICT を活用した個別最適な学習の推進 【指導】全教員 【内容】足立スタンダードを基盤とした授業の定着と ICT の利活用 ○教科指導専門員を活用した授業研修の実施	○主体的・対話的で深い学びの実現 「めあて&振り返り 100%」 「ICT 利活用 80%」 ○若手教員 4人×3、計12回	○学校評価アンケート「すすんで学習」 肯定率 90%以上 ○児童自己評価 80%以上	●学校評価アンケート 肯定率 92% ○足立スタンダードに基づく ICT 機器を活用した授業づくりの定着 ○教科指導や年次研修等、若手教員の研究授業の活用	・校内研究・研修を通して、幅広い教科・領域において一人1台端末を活用しながら個別最適な学びの充実を図ることができた。互いに見合い、学び合うことでさらに深めていく。	○

重点的な取組事項－2		安全・安心な学校づくりの推進					
A 今年度の成果目標		達成基準		実施結果		コメント・課題	達成度
子供がより安全に、安心して学ぶことができる環境の確立		学校評価アンケート：以下の3項目 肯定率 90%以上が2項目以上		学校評価アンケート3項目において、肯定率 90%以上を達成。		肯定的評価 90%以上の維持に努めていく。	◎
B 目標実現に向けた取組み							
項目	達成基準	具体的な方策		実施結果		コメント・課題	達成度
(1)安全な生活環境の確立	学校評価アンケート 「安全な生活環境」 肯定率 90%以上	①ウィズ・コロナにおける新しい生活様式の創造と確立 ②家庭・地域との連携による登下校時の安全確保 ③安全指導資料等を効果的に活用した安全指導の充実		●学校評価アンケート肯定率 94%昨年度の 99%から 5ポイント Down ①状況に応じた適切な感染症対策の工夫と徹底。 ②年3回の集団登校期間の実施。PTAと連携した校外パトロールの実施。 ③状況に応じた適切な健康・安全指導の実施。		・アフター・コロナを迎えた今年度の学校教育の取組を振り返り、教育活動の更なる充実に努めていく。 ・教職員及び児童が、危険を予測し、回避する能力の更なる向上に努めていく。	○

(2) 健やかな心と体の育成	学校評価アンケート 「健やかな心と体」 肯定率 90%以上	① 児童の実態を踏まえた体力向上の取組の充実 ② 定期健康診断結果に基づく保護者と連携した健康教育の推進 ③ 保護者や関係企業等と連携した生活習慣改善に向けた「食に関する指導」の充実	● 学校評価アンケート肯定率 93% 昨年度の 89% から 4ポイントUP ① 運動遊びの日常化と運動習慣の定着を目的とした元気アップタイム(体育的活動)を設定。持久走、なわとびの「月間」の設定。 ② 未治療者への治療勧告。 ③ 外部講師を依頼するなど、「食に関する指導」を各学年で実施。	・ 運動遊びの時間を確保し、楽しく体を動かすことで運動習慣が定着するよう努めた。現在の取組を継続し、体力向上を実現する。 ・ 保護者への声掛けも継続して行っていく。	◎
(3) 誰もが学び、生活しやすい環境の構築	学校評価アンケート 「学び、生活しやすい環境」 肯定率 90%以上	① 「ユニバーサルデザイン」を踏まえた校内環境の改善 ② 「WEBQU」を効果的に活用した個別支援の充実 ③ 「コミュニケーションの教室」における個別指導の充実	● 学校評価アンケート肯定率 93% 昨年度の 93% と同率 ① 配布文章の書式を UD デジタル教科書体に統一。誰もが過ごしやすい環境に向けた校内整備の実施。 ② 調査結果を学級経営、個別支援への活用。要支援群に属する児童の把握と支援の実施。 ③ 個別支援・小集団指導の充実。	・ 特別支援教育の充実は本校の特色の一つであり、誰もが過ごしやすい環境の構築に引き続き努めていく。 ・ 個別最適の実現と規範意識の醸成とをバランスよく目指していく。	○

重点的な取組事項－3		保護者や地域と共に子供を育む活動の充実			
A 今年度の成果目標		達成基準	実施結果	コメント・課題	達成度
保護者・地域と連携した教育活動の充実		学校評価アンケート：以下の3項目肯定率 90%以上が2項目以上	学校評価アンケート3項目においても、肯定率 95%以上を達成。	肯定的評価9割の維持に努めていく。	○
B 目標実現に向けた取組み					
項目	達成基準	具体的な方策	実施結果	コメント・課題	達成度
(1) 学校と保護者、地域との連携	学校評価アンケート 「保護者や地域との連携」 肯定率 90%以上	① 教育活動ボランティア(安全、図書、学習等)の活性化 ② P T Aや協議会と連携した安全確保や学力向上の取組の充実 ③ 地域の人材、学習材を効果的に活用した取組の創造	● 学校評価アンケート肯定率 96% 昨年度の 90% から 6ポイントUP ① 生活科学習における学習ボランティアの活用、図書ボランティアによる「お話の森」の実施 ② 保護者と教員での地域見守りパトロール、漢字検定、季節の校内掲示の児童と広報部のタイアップ ③ 1・2年の町探検、3年のお囃子体験、3・4年の清掃活動による地域との連携の強化。	・ 保護者・地域と連携して学校内外で多くの取組を実施し、児童の活躍の場を設けることができた。 ・ 地域の人材・学習材を効果的に活用した活動を今後も想像・創造し、実践を重ねていく。	○

(2)情報発信の充実	学校評価アンケート 「参加や報告の機会」 肯定率 90%以上	①ホームページを活用した教育活動やPTA、協議会活動の定期的な配信 ②感染状況に応じた授業公開や保護者会等の実施 ③学校評価の実施方法や報告の場の工夫	●学校評価アンケート肯定率 99% 昨年の 97%から 2ポイントUP ①HP「学校日記」の毎日更新と PTA ブログ、C4th H&S による配信 ②参観時間や参観人数増など、状況に応じた学校公開、土曜授業公開の実施。ハイブリッド保護者会の設定 ③C4thH&S 活用によるアンケート実施	・HP の毎日更新により保護者・地域の学校に対する理解・期待を高めた。 ・C4th H&S、HP、Google classroom を活用したデジタル化を推進した。	◎
(3)望ましい人間関係の構築	学校評価アンケート 「楽しく充実した学校生活」 肯定率 90%以上	①「希望や目標をもって生きる態度の形成」を核としたキャリア教育の充実 ②感染状況に応じた異学年交流活動の創造・実施 ③自発的・自治的な活動を高める児童会活動やクラブ活動の工夫	●学校評価アンケート肯定率 97% 昨年の 96%から 1ポイントUP ①全学年で夢デザインシートを活用、2年・職業インタビュー、6年・租税教室によるキャリア教育の充実 ②児童の自己決定を大切にした元氣アップタイム・アダッチワールド、全校遠足・作品展鑑賞における異学年交流の実施 ③ユニセフ活動、服プロジェクト等の児童会活動、「感謝の会」のお茶クラブのおもてなし活動の実施	・本校の特色の一つである異学年交流の充実に努めた。高学年がリーダーとなって自発的・自治的に活動する機会を増やすことができた。 ・学年を超えた交流が、豊かな心の醸成につながっていることを改めて実感できた。	○

6 まとめ

(1) 今年度の成果と次年度に向けた課題及び解決の方向性

重点的な取組事項ー1 学力向上アクションプラン

- ・ 「足立スタンダード」「足立小 授業づくり虎の巻」に基づく授業づくり、ICT機器及びクラウドを活用した授業改善、学習規律の確立により、基礎的・基本的な内容の定着を図ることは概ね実現できている。「主体的・対話的で深い学び」を視点とした授業改善を更に推進し、基礎的・基本的内容の確かな定着を図るとともに、資質・能力の育成に努める。

【課題】既習事項を活用するとともに、ICT機器及びクラウドの活用を更に進め、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を図ること

【取組】授業…自力解決に基づく「集団検討」の活性化、個別指導…一人一人の課題解決力を高める支援、補習…目的・対象をより明確にした指導

- ・ 若手・中堅教員の年次研修、教科指導専門員による授業観察・指導の機会を活用し、校内で互いに授業を見合う機会を確保することで、学校全体で授業力の向上に努めることができている。授業時数見直しによる余剰時間を活用し、校内研修の更なる充実に努める。
- ・ 学校全体、学年ごとの共通行動の徹底を図り、区施策の確実な実施に努めるとともに、パワーアップタイム、朝補習、家庭学習の効果的な実施に努めた。ICT機器を活用した授業改善を実現・推進しているが、クラウドの活用による資質・能力の育成を目指す。
- ・ SDGs を意識した教育の推進を継続し、学校の特色・実態に応じた学習活動の創造に努めていく。

重点的な取組事項ー2 安全・安心な学校生活環境の充実

- ・ 教職員間の「報告・連絡・相談」を徹底することで組織的な指導体制を確立し、問題の早期発見・解決を概ね実現することができている。WEBQUの効果的な活用を工夫し、可能な限り問題行動の未然防止に努める。
- ・ 安全指導・学習の充実に努め、子供たち一人一人の「危険を予測し回避する能力」を高めていく。そのために不可欠になる、教職員個々の危機予測能力、対応力を高められるような指導・研修に引き続き力を入れていく。
- ・ 「アフターコロナ」で求められた教育活動の再開・充実に、「想像と創造」を重ねながら最善と考えられる内容・方法を設定して充実に努めた。働き方改革の視点から行事の精選、取り組み方の見直しを進め、誰もが安心して学び、生活できるような環境づくりに引き続き努める。

重点的な取組事項－3 保護者や地域と共に子供を育む活動の充実

- ・ 学校ホームページの「学校日記」をほぼ毎日更新し、積極的な情報発信を実現した。一日平均520件超（今年度最多4,883件）のアクセスがある。引き続き積極的な情報発信と校務のデジタル化を推進し、家庭・地域の学校に対する信頼・期待・満足を更に高められるように努めていく。
- ・ コロナ禍で求められた制約が軽減し、コロナ前を踏まえた学校行事等を実施できたことで保護者・地域住民の満足につなげることができた。保護者・地域と連携した教育活動を引き続き工夫するとともに、地域の学習材や人材を効果的に活用した活動の創造を重ねていく。

（2）保護者や地域へのメッセージ

平成25年4月に統合新校として誕生した足立小学校も開校11年目を迎えました。「新たな10年」のスタートの年は、「アフターコロナ」で教育活動を活性化することができ、11月には、東京都教育委員会 体育健康教育推進校として2年間取り組んできた成果を発表する「研究発表会」を開催しました。

一人1台端末の実現に加えて、今年度はC4th H&Sが導入されるなど、校務のデジタル化、ペーパーレス化が一層進んでいます。便利さと難しさを実感しているところですが、本校の様々な取組に対して、GoogleFormsを活用した「学校評価アンケート」では多くの方々から肯定的評価をいただくことができ、ほっとしております。安全・安心の確保と基本的な生活習慣や学習規律の確立を重視し、日々の教育活動の充実に努めることで、子供たち一人一人が自身の成長を実感できるように今後も努めていきます。学校に求められている様々な課題を解決するためには、学校・家庭・地域が三位一体となった取組が不可欠です。三者の連携の前提となるのは学校からの積極的な情報発信であると考えます。スローガンとして掲げている「期待の登校・満足の下校」は、子供たちはもちろん保護者の皆様、地域の皆様の期待に応えることも意味しています。皆様の力強く温かいご支援、ご協力を引き続きよろしく願いいたします。

（3）その他（学校教育活動全般について）

コロナ禍においては、想像と創造を重ねてできる方法を工夫することで、教育活動の充実に努めた。「ウィズ・コロナ」に転じた現在も、状況に応じた感染症対策を継続しながら、教育活動の更なる充実に努めていく。